

日本史B

【解答】

I

| | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| 問1 | 問2 | 問3 | 問4 | 問5 |
| エ | オ | イ | エ | エ |
| 問6 | 問7 | 問8 | 問9 | 問10 |
| エ | ウ | イ | オ | ア |
| 問11 | 問12 | 問13 | 問14 | 問15 |
| ウ | イ | エ | ウ | イ |

II

| | | |
|-------|--------|-----|
| A | B | C |
| 国風 | 三蹟（三跡） | 老中 |
| D | E | F |
| 勘定奉行 | 旗本 | 米騒動 |
| G | | |
| 立憲政友会 | | |

III

分国法とは、戦国大名が領国統治の基本を定めた法令であり、家法・壁書などとも称される。それぞれの領内の状況に応じて、喧嘩両成敗や連座制など家臣団に対する統制や、年貢の未納や逃散を禁じる農民への規制なども含まれる。今川氏の「今川仮名目録」、伊達氏の「塵芥集」、武田氏の「甲州法度之次第」などが知られている。

【学習アドバイス】

本学の入試は、例年5科目の中から2科目を選択して受験する形式を採り、試験時間は2科目合わせて100分となるので、各科目にかけるバランスにもよるが、平均的には50分程度が解答時間となる。原始・古代から現代史（昭和時代）まで出題されており、2014年度の入試では戦後の占領政策・サンフランシスコ平和条約・戦後の高度経済成長に関する出題が見られた。出題分野は、政治史・外交史・社会経済史・文化史とバランスよく出題されている。解答形式は、記述式・選択式が併用されており、記述式は空欄補充と150字程度の論述問題、選択式は語句選択による空欄補充・正誤判定問題・年代配列・一行問題に用いられている。出題内容は、教科書の範囲内の標準的な出題であるが、単に語句や人名等の暗記だけでは対応できない問題も出題されている。

日本史で高得点をとるために、日本史学習の基本となる政治史を中心に、その時代の為政者が、「どのような政策を展開したか」、「どのような事件が発生したか」を確認することから着手しよう。その際に、教科書・用語集・史料集・図表集を積極的に活用して、知識の確認・定着をはかりながら、歴史の概観や史実の因果関係をしっかり把握しよう。そして吸収した知識を実際の入試で使えるようにするために、標準的な大学入試問題集にトライしよう。日本史の大学入試問題は、「原因→経過→結果・影響・意義」という流れで構成されている場合が多いので、知識の確認・定着はもちろん、歴史の概観や因果関係を把握するには最適な素材である。

本学における空欄補充問題は、すべて教科書に記載されている「太字」の箇所なので、空欄の前後から語句を判断して、正確な漢字で記述できるようにしておこう。語句確認のために、大学入試問題集や一問一答形式の問題集を利用することが重要である。

出題量は少ないが、文化史の出題もみられる。文化史で出題されている問題も、教科書の「太字」の箇所なので、確実に得点できるようにしよう。学習する際には「○○文化の時に誰が登場したか」、「誰がどのような作品を残したか」、「誰がどのような著書を著したか」を確実にしておこう。特に一問一答形式の問題集で、人物・作品を吸収し、図表集で作品を視覚的に確認して、文化史の定着を図ろう。

本学の合否を大きく左右するのが正誤判定問題である。正誤判定問題は、選択肢の各文を正確に読んだ上で、各時代のキーワードとなる語句が正しく用いられているかどうか、誤った語句が入っていないかどうかを正確に判断できるかが重要になってくる。普段から、紛らわしい語句（例えば、「応永の乱と応永の外寇」や「島津義久と島津家久」）等に注意して学習しよう。また、出来事の内容に関する正誤を問う出題もあるので、教科書や用語集を用いて、内容をしっかりと把握しておこう。正誤判定問題に十分に対応するために、正誤判定問題集や、センター試験対策用の問題集を利用して、「正しい選択肢はどれか」、「どこが誤っているか」をしっかりと判断できるようにしておこう。

年代配列問題は、知っている年号を基準において「前」か「後」か、何世紀の前半・中頃・後半かで把握したり、為政者との結びつきから判断できるようにしていれば十分に対応ができる問題である。

最も点差がついてしまうのが論述問題で、100字もしくは150字程度の字数が要求されている。普段から「原因・経過・結果・影響・意義」等を考えながら学習することが重要である。基本的な知識が身についたら、本学の過去問や他大学の類似形式の問題にあたって実際に書いてみよう。論述する際に、P29で述べた歴史の6W 1H 1Rを考え、吸収した知識を、出題者の意図にあてはまるように的確にまとめることが大切である。

直前には、本学の過去問演習をしっかりと行った上で、本番を迎えよう。